

令和 2 年度

事 業 報 告 書

社会福祉
法人十和田市社会福祉協議会

目 次

本会の組織

1 会長・副会長・理事	1
2 監 事	1
3 評議員	1
4 職員名簿	2

会務の運営

1 理事会	3
2 評議員会	4
3 監査会	4
4 評議員選任委員会	4

1 環境づくりの推進

(1) ふれあい相談所事業	5
(2) 広報・啓発事業	5
(3) 生活福祉資金貸付事業	7
(4) たすけあい資金貸付事業	8
(5) 日常生活用具貸出事業	8
(6) 福祉安心電話サービス事業	8
(7) 日常生活自立支援事業	9
(8) 成年後見事業	10
(9) 福祉サービス苦情解決第三者委員設置事業	10
(10) フードバンク・サポート事業	10
(11) 十和田市意思疎通支援者派遣事業	11

2 地域づくりの推進

(1) 一人暮らし高齢者ふれあい事業	12
(2) 夏休み寺子屋事業	12
(3) 高齢者健康体力維持支援事業	12
(4) ふれあい・いきいきサロン事業	12
(5) 地域福祉ほのぼの交流事業	13
(6) ゆめ色フェスティバル事業	14
(7) 手話を学ぶ機会の提供事業	14
(8) 十和田市社会福祉大会事業	14
(9) あんしんネットワーク構成員の集い事業	15
(10) 十和田市生活支援体制整備事業	15
(11) 発達障害理解の事業	16

3 人づくりの推進

(1) 福祉教育推進事業	17
(2) ほんわかハート展事業	17
(3) 中学生ボランティアスクール事業	18
(4) 中高生福祉サミット事業	18
(5) 災害救援ボランティア活動研修事業	19
(6) お話しボランティア派遣事業	19
(7) ボランティア・市民活動事業	19
(8) 十和田市介護支援ボランティア事業	21

4 協力・連携・協働の強化	
(1) 関係行政との連携協働	2 2
(2) 地域包括支援センターとの連携協働	2 2
(3) 民生委員児童委員協議会との連携協働	2 2
(4) 町内会連合会との連携協働	2 2
(5) 身体障害者福祉会との連携協働	2 2
(6) 老人クラブ連合会との連携協働	2 2
(7) 更生保護女性会との連携協働	2 2
(8) 連合婦人会との連携協働	2 2
(9) 手をつなぐ育成会との連携協働	2 3
(10) 市内社会福祉法人との連携協働	2 3
5 福祉サービス利用者等の個人情報の保護	
	2 3
6 歳末たすけあい運動	
	2 3
7 組織基盤の強化	
(1) 事務執行における内部けん制体制	2 4
(2) 多様な参画による会員組織	2 4
(3) 役員体制の強化	2 4
(4) 機能的・効果的な事務局組織	2 4
(5) 安定的・持続的な財源確保	2 4
(6) 法令遵守の組織運営と財務規律の強化	2 5
(7) 地域福祉活動計画の進行管理	2 5
(8) 経費の縮減と事務処理の効率化	2 5
(9) 事業評価の実施	2 5

本会の組織

令和3年3月31日現在

1 会長・副会長・理事(15名)

会長	江渡恵美	中野渡勇治	古舘實
副会長	小川洋平	国分隆子	吉田壯一
副会長	升澤博也	竹達雄	日野口敏章
副会長	佐々木重康		
常務理事	佐々木令子		
理事	野月一あき	中野渡勇治	古舘實
	古川崎享	国分隆子	吉田壯一
	立大竹	竹達雄	日野口敏章
	正美		

2 監事(3名)

高野洋三 櫻田努 佐藤弘人

3 評議員(33名)

立崎弘	織川貴司	角田ヨシ子	石田義政
張摩博子	佐々木吉一	角京子	赤岩秀子
山本孝司	宮本範道	中野渡福美	月野誠
桜田一雅	山田誠一	小笠原豊	坂秀廣
漆畠貴美男	小林千恵	杉喜和子	白廣忠
金村金作	木鉄男	和田原原	外山忠節
中河原めぐみ	小鈴幸一	織田徳子	小野木操
長畠清二	北田章	沼田君男	
東 静			

4 職員名簿(21名)

【事務局】

事務局長 佐々木 令子 (契約担当者 兼 会計責任者)
事務局次長 福田 延幸 (出納責任者)

【総務管理係】

係長 田中伸子 (会計職員)
主事 小泉智子
臨時職員 竹ヶ原由佳
パートタイマー 盛田菜子
手話通訳士 小沢純二

【地域福祉係】

係長	中野渡信哉		
主査	藤田智哉		
主事	浦田諭		
主事	氣田望美		
臨時職員	畠山裕美子		
パートタイマー	野月美幸		
生活支援員	小松真知子	甲地久美子	佐々木早苗
	外山久美子	太田千鶴子	田中光子
	大城多恵子	中野渡まり子	

【成年後見センター】

所長	佐々木令子		
専門員	藤田智哉	浦田諭	
生活支援員	小松真知子	佐々木早苗	外山久美子
	太田千鶴子	田中光子	

【災害ボランティアセンター】

所長 佐々木令子
専門幹 中野渡信哉
コーディネーター 氣田望美

【苦情解決窓口】

責任者 佐々木令子
担当者 藤田智哉

会務の運営

1 理事会

開催日	会 場	出席者	議 案 等
第1回 6月3日（水）	決議の省略	理事15名 監事3名	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 1 令和元年度事業報告並びに収支決算 2 令和2年度予算の補正 3 副会長の選定 4 評議員選任候補者の推薦 5 評議員選任・解任委員会委員の選任 6 定時評議員会の開催（案）
第2回 11月25日（水）	市民交流プラザ 多目的研修室2	理事11名 監事2名	<p><報告></p> <ul style="list-style-type: none"> 1 会長及び常務理事の業務執行状況 <p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 1 臨時職員等取扱規程の改正 2 就業規程の改正 3 セクシャルハラスメントの防止に関する規程の制定 4 パワーハラスメントの防止に関する規程の制定 5 評議員候補者の推薦
第3回 3月5日（金）	市民交流プラザ 多目的研修室2	理事12名 監事3名	<p><報告></p> <ul style="list-style-type: none"> 1 会長及び常務理事の業務執行状況 <p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 1 令和3年度事業計画並びに収支予算 2 令和2年度予算の補正 3 給与規程の改正 4 臨時職員等取扱規程の改正 5 経理規程の改正 6 評議員選任候補者の推薦 7 事務局長の解任及び選任 8 第2回評議員会決議の省略

2 評議員会

開催日	会 場	出席者	議 案 等
定時評議員会 6月24日(木)	決議の省略	評議員35名	<決議事項> 1 令和元年度事業報告並びに収支決算 2 令和2年度予算の補正
第2回 3月26日(金)	市民交流プラザ 多目的研修室2・3	評議員34名	<決議事項> 1 令和3年度事業計画並びに収支予算 2 令和2年度予算の補正

3 監査会

開催日	会 場	出席者	監 査 内 容
5月22日(金)	市民交流プラザ 多目的研修室1	監事3名	令和元年度決算に伴う各会計の経理状況 並びに業務の執行状況
10月29日(木)	市民交流プラザ 多目的研修室1	監事3名	令和2年度上半期の各会計の経理状況
2月26日(金)	市民交流プラザ 多目的研修室1	監事3名	令和2年度下半期の各会計の経理状況

4 評議員選任委員会

開催日	会 場	出席者	監 査 内 容
6月12日(金)	決議の省略	選任委員5名	佐々木 操 評議員選任
12月2日(水)	決議の省略	選任委員5名	東 静 評議員選任

1 環境づくりの推進

誰もが安心して福祉サービスを利用できる環境づくりを目指し、総合的な福祉サービスの提供体制を整備し、人にやさしい環境づくりを推進するため、次の事業を実施した。

(1) ふれあい相談所事業

ふれあい相談所を開設し、地域住民の日常生活上のあらゆる相談に助言を行い、心配ごとの改善・解決により福祉の増進を図った。また、相談員の技法向上と情報共有を目的に、県社協主催の相談技法研修会へ相談員2名を派遣した。

〔事業状況〕

No.	区分	本年度	内訳
1	開設日数	245日	①人権問題42件②就業・生業31件他
2	相談件数	94件	①来所70件②電話12件③メール12件
3	1日当たり相談件数	0.38件	40代 男性の相談が多い

※詳細は、事業報告附属明細書「ふれあい相談所事業実施状況」参照のこと。

(2) 広報・啓発事業

市民に対し、地域福祉推進の意識を啓発するとともに、本会が取り組んでいる活動や実施事業について周知を図った。また、社会福祉に関する情報を提供することを目的に広報紙を年3回発行した。

①広報紙「社協だより」の発行

1	号及び発行日	第122号 令和2年7月発行
	規格	A4版カラー刷 6頁
	発行部数	26,700部

〔掲載内容〕

- ◆耳が聞こえない方の声をつなぐ 意思疎通支援者派遣事業
- ◆聴覚障がいがある方の生活を支えるために
- ◆令和2年度社協事業計画・資金収支予算 ・環境づくりの推進 ・地域づくりの推進
 - ・人づくりの推進 ・福祉サービス利用者の個人情報の保護 ・歳末たすけあい運動
 - ・協力・連携・協働の強化 ・組織基盤の強化
- ◆法人会員のご紹介
- ◆まちかど情報局 消費者トラブルにあわないために
- ◆《善意の窓》 令和元年12月1日から令和2年6月5日までの金品寄附者

2	号及び発行日	第123号(共同募金合同特集号) 令和2年10月発行
	規格	A4版カラー刷 12頁
	発行部数	27,600部

[掲載内容]

- ◆あなたのお悩み 気軽にご相談ください ふれあい相談所事業
- ◆高齢の方、障がいのある方のための事業
 - ・日常生活自立支援事業 ・成年後見事業 ・お話しボランティア派遣事業 ・地域福祉ほのぼの交流事業 ・福祉安心電話サービス事業 ・日常生活用具貸出事業 ・一人暮らし高齢者ふれあい事業 ・高齢者健康体力維持支援事業 ・ふれあい・いきいきサロン事業 ・生活支援体制整備事業 ・介護支援ボランティア事業 ・ゆめ色フェスティバル事業 ・手話を学ぶ機会の提供事業 ・発達障がい理解の事業
- ◆子どもたちのための事業
 - ・ほんわかハート展事業 ・夏休み寺子屋事業 ・中高生福祉サミット事業 ・中学生ボランティアスクール事業 ・福祉教育推進事業
- ◆成人のための事業
 - ・ボランティア・市民活動事業 ・ボランティア保険加入促進事業 ・十和田市社会福祉大会事業 ・福祉教育インストラクター養成研修事業
- ◆困りごとの改善のための事業
 - ・生活福祉資金貸付事業 ・たすけあい資金貸付事業 ・ふれあい相談所事業 ・歳末たすけあい運動事業 ・フードバンク・サポート事業
- ◆環境づくりの推進
 - ・広報・啓発事業
- ◆会務の運営
 - ・各種会議 ・福祉サービス苦情解決第三者委員設置事業
- ◆令和元年度決算報告
- ◆福祉教育体験学習本格始動
- ◆車イスありがとう
- ◆楽しみながらボランティア活動を
- ◆皆さんの力が地域福祉を支えます 会費のご協力をお願いします
- ◆第16回十和田市社会福祉大会

3	号及び発行日	第124号 令和3年3月発行
	規 格	A4版カラー刷 6頁
	発 行 部 数	26,700部

- ◆コロナ禍だからこそつながりを大切に 安否確認・交流活動をしています
- ◆第16回十和田市社会福祉大会開催 ・表彰者紹介
- ◆コロナ禍の暮らしを支える ・生活福祉資金貸付事業 ・たすけあい資金貸付事業
 - ・フードバンク・サポート事業 ・ふれあい相談所事業
- ◆優しい心はぐくもう 福祉の作品コンクール ほんわかハート展 入賞者紹介
- ◆まちかど情報局 一人で悩まず消費者センターへご相談ください
- ◆《善意の窓》 令和2年6月6日から令和3年2月5日までの金品寄附者

②ホームページによる情報提供

事業の紹介や社協だより、行事案内やボランティア募集などを十和田市社会福祉協議会のホームページに掲載し情報提供を行った。

ホームページ：<http://towada-shakyo.or.jp> E-mail：welfare@towada-shakyo.or.jp

(3) 生活福祉資金貸付事業

低所得者、障がい者、高齢者及び失業者世帯を対象に、資金の貸付と必要な援助指導により、世帯の経済的自立と生活意欲の助長を促し、生活の安定と向上を図ることを目的に民生委員・児童委員及び関係行政機関等の協力を得ながら援護対策に取り組んだ。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急支援対策である特例貸付において、休業や失業により収入減となった世帯を対象に貸付支援を行った。

[事業状況]

No.	区分	本年度	内訳
1	貸付決定件数	129件	すべて特例貸付
2	相談件数	226件	うち特例貸付200件

※詳細は、事業報告附属明細書「生活福祉資金貸付事業実施状況」参照のこと。

①償還促進への取り組みと不良債権の調査及び整理

生活福祉資金の貸付原資となるべき償還金について、県社協と共同で償還促進運動を年1回継続実施するとともに、不良債権の整理を行った。

※新型コロナウイルス感染予防のため面接は実施しなかった。

対象 50件

債務承認書提出 1件

支払猶予申請 0件

②民生委員児童委員協議会との協力体制の強化及び事務指導

償還促進を図るため、民生委員個人毎へ償還状況を毎月送付し、協力体制の強化及び情報共有を行った。

③特例貸付への対応

新型コロナウイルスの影響により、収入の減少がある方々の相談を受け、貸付の申請手続きを行った。

④生活福祉資金貸付調査委員会

期日 令和3年3月19日（金）

会場 市民交流プラザ 多目的研修室2・3

出席者 6名

報告事項 令和2年度申請状況等について

(4) たすけあい資金貸付事業

不時の出費等により最低生活の維持が困難な低所得世帯に対し、応急援護資金の貸付を行った。また、長期間滞納が続く借受人及び連帯保証人に文書での督促を行った。

〔事業状況〕

No.	区分	本年度	内訳
1	貸付件数	86件	貸付総額1,800,000円
2	相談件数	144件	50代 男性の相談が多い
3	総貸付残数	93件	総貸付残額2,367,000円

※事業状況は、事業報告附属明細書「たすけあい資金貸付事業実施状況」参照のこと。

①たすけあい資金貸付事業運営委員会の開催

期日 令和3年3月19日（金）
会場 市民交流プラザ 多目的研修室2・3
出席者 6名
報告事項 令和2年度申請状況等について

②夜間督促（長期滞納者宅）訪問の実施

新型コロナウイルス感染予防のため実施しなかった。

(5) 日常生活用具貸出事業

高齢者や障がい者の日常生活の利便を図るため、介護用ベッド、車イス、シルバーカーの貸出を行った。

〔貸出状況〕

（）内の数字は、短期貸出数

区分 年度	介護用ベッド		車イス		シルバーカー	
	貸出数	返却数	貸出数	返却数	貸出数	返却数
令和2年度	17	14	8 (10)	9	3	3
当該年度末 累計貸出数	149		58		15	

(6) 福祉安心電話サービス事業

自宅の電話機を緊急装置とする福祉安心電話サービス事業は、近隣住民の協力による見守りネットワークを構築し、利用者数が30名、協力員数が84名となった。

①ふれあい電話サービスの実施

ふれあい相談員から福祉安心電話サービス利用者及びふれあい電話サービス希望者へ安否・健康状態等の確認電話、回数全329回を実施した。

〔ふれあい電話の事例〕

- ・令和2年7月27日 ふれあい相談員から電話
いかがお過ごしですか。

- コロナと天気にはもう飽きていています。—
- 庭の草も天気が悪いとすぐに伸びて大変。—
- 元気に過ごしています。—
- 何かあったらいつでもボタンを押してくださいね。—
- ありがとうございます。—

②福祉安心電話の緊急通報等着信状況

No.	区分	本年度	内訳
1	緊急通報件数	7件	協力員要請1件・救急車要請1件
2	火災通報件数	0件	
3	停電通報件数	7件	
4	相談通報件数	11件	
5	ペンダント電池切れ通報件数	1件	
6	端末機バッテリー切れ通報件数	0件	

〔緊急通報事例〕

- ・令和2年6月4日 18:56 相談通報を受信センターが確認。
- 受信センターが本人へ連絡すると、息を吸うのが苦しく、動くこともできないとの訴えあり。
- 受信センターから救急車の要請と協力員へ連絡し、病院へ搬送することとなった。

(7) 日常生活自立支援事業

認知症や知的・精神障がい等により判断能力が不十分な方に対し、福祉サービスの利用援助と日常的金銭管理、書類の預かり等を行った。また、基幹的社協として、管内3町（野辺地町・七戸町・東北町）社協、民生委員・児童委員、関係機関・団体及び金融機関等と連携を図りながら、広域的な事業推進を図った。

〔事業状況〕

No.	区分	本年度	内訳
1	契約締結件数	29件	①十和田市22件②野辺地町5件③七戸町2件
2	相談件数	2,233件	①認知症950件②精神障害811件③その他198件④知的障害274件
3	実利用件数	120件	①十和田市95件②野辺地町14件③東北町6件④七戸町5件

※詳細は、事業報告附属明細書「日常生活自立支援事業実施状況」参照のこと。

①「あっぷるハートとわだ」の運営

日常生活自立支援事業は、平成12年6月に施行された社会福祉法において、福祉サービス利用援助事業として位置づけられており、この事業は、管内とする3町（野辺地町・七戸町・東北町）を含める広域的な展開となるため“あっぷるハートとわだ”の愛称を用いている。事業の利用者数は、1市3町で、120名となった。

②支援員の資質向上への取組

直接サービス活動にあたる生活支援員13名を委嘱配置するとともに、資質向上を

図るため研修会へ派遣した。

期　　日　　令和2年9月7日（月）

会　　場　　青森県総合社会教育センター 2階「第1研修室」

参 加 者　　4名

（8）成年後見事業

平成17年度に体制を整備した成年後見事業において、これまで受任した人数は延べ18名（終結10名）となっている。また、この後見事務の公正性・透明性を図るために、運営委員会を位置づけし、必要に応じ開催した。

〔事業状況〕

No.	区分	本年度	内　　訳
1	受任件数	1件	
2	相談件数	5件	
3	実受任件数	8件	後見類型 8件 (①認知症5件②知的1件③精神1件④他1件)

※詳細は、事業報告附属明細書「成年後見事業実施状況」参照のこと。

①〔第1回運営委員会〕

期　　日　　令和3年1月27日（水）

会　　場　　市民交流プラザ

出席者　　10名

協議事項　　①後見事務報告について ②新規後見事業利用者について

（9）福祉サービス苦情解決第三者委員設置事業

各種福祉サービスの適正な運営を確保し、利用者等からの苦情を適切に解決するため、苦情解決窓口を設置した。

①福祉サービス利用者等の個人情報の保護

福祉サービス利用者等の個人の権利利益を保護するため、個人情報の管理体制を講じるとともに、職員の個人情報保護に関する意識啓発に努めた。

②第三者委員の設置

第三者委員の人数　　5名

第三者委員の構成　　監事・評議員・地域代表者・学識経験者

（10）フードバンク・サポート事業

県内食品企業と県社協が協働しているフードバンクシステム（食品ロス（包装破損・期限切れ間近等）を利用し、市内で困窮する方々へ食糧支援を行った。

[事業状況]

企業（食品業者）	提供食品	支援件数
コープフードバンク	レトルトご飯、カップラーメン 缶詰、飲料等	全 150 件 • たすけあい資金貸付相談 … 19 件 • 生活福祉資金相談 … 1 件 • フードバンク相談 … 79 件 • 日常生活自立支援事業相談 … 30 件 • 行政 … 10 件 • サロン … 1 件 • こども食堂 … 2 件 • 包括支援センター … 8 件
フードサポート	カップ麺・ソフトパン・鯖缶等	

(11) 十和田市意思疎通支援者派遣事業

聴覚、言語機能及び音声機能等の障がいにより意思疎通を図ることに支障のある方々に、手話通訳及び要約筆記の方法により、障がい者とその他の方との意思疎通を支援する手話通訳者及び要約筆記者の派遣を行い、意思疎通の円滑化を図った。

[事業状況]

意思疎通支援者	派遣件数	派遣内容
設置手話通訳者 1 名 登録手話通訳者 7 名	281 件	• 病院受診、訪問看護 … 160 件 • 施設モニタリング、家族会議 … 88 件 • 就職面接、初任者研修 … 11 件 • 市役所手続き、相談 … 10 件 • 学校訪問 … 1 件 • その他 … 11 件
登録要約筆記者 1 名	0 件	

※詳細は、事業報告附属明細書「十和田市意思疎通支援者派遣事業実施状況」参照のこと。

2 地域づくりの推進

共に支え合う地域づくりを目指し、市民一人ひとりが福祉を理解し、みんなで支え合い、誰もが安全・安心に暮らすことができる地域づくりを推進するため、次の事業を実施した。

(1) 一人暮らし高齢者ふれあい事業

民生委員児童委員協議会との連携により、地域で生活する一人暮らし高齢者（70歳以上）を対象に、会食・レクリエーション等を提供し、相互の交流と孤独感の解消を図る事業。

- 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催中止とした。
(10月の開催／約400名参加を予定していた)

(2) 夏休み寺子屋事業～児童の見守りある居場所づくり～

地域のあたたかな見守りのある居場所において、児童の健全育成を支援する目的で、夏休み期間中、地域の住民ボランティアが集会所等を活用し、遊び・学び・伝えを行う事業。

- 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催中止とした。
(7月下旬から8月上旬全9日間の開催／延べ約600名参加を予定していた)

(3) 高齢者健康体力維持支援事業

市老人クラブ連合会と連携し、高齢者の健康寿命を延ばすよう、心身の健康・体力維持及び増進を図る目的で、ふれあいのあるスポーツ交流を図る事業。

- 県からの類似する指定事業と重なったため、本事業の実施を見送り（中止）した。
(年間2回程度開催／延べ約120名参加を予定していた)

(4) ふれあい・いきいきサロン事業

一人暮らし高齢者等で家に閉じこもりがち、話し相手がない、寂しいという不安や悩みのある方々に、集会場等の身近な場所で、仲間づくり、出会いづくりとともに健康増進及び交流を図る事業。

[開催の状況]

全30地区 / 延べ403回 / 延べ4,582名



[3年指定地区・団体]

- ①大和集いの会（19回/158名）②いきいきはつらつサロン（20回/227名）③三日市長生会（24回/253名）④両泉寺あづまりこ（24回/218名）⑤法量すみれ会（19回/188名）⑥白上中通りふれあいきいきサロン（3回/22名）⑦川口ばく笑会（11回/151名）⑧サロン福寿草（12回/112名）

[単年度指定地区・団体]

- ①ひまわりふれあいサロン（17回/218名）②いきいきサロンオアシス（10回/68名）③一本松いきいきサロン（16回/196名）④楽しく集うふれあい会（1回/9名）⑤さわやか会（6回/167名）⑥下切田ふれあい・いきいきサロン（9回/81名）⑦相坂上ふれあいサロン会（9回/215名）⑧カトレアサロン（15回/123名）⑨楽らく会（10回/132名）⑩なごみ会（42回/549名）⑪このゆびと～まれ（8回/248名）⑫しらかばいきいき教室（9回/94名）⑬ふれあい・いきいきサロン太田川原（11回/147名）⑭ふれあいサロン（12回/114名）⑮咲楽会（9回/51名）⑯寺向ローズマリークラブ（7回/77名）⑰西十四番町集いの会（19回/182名）⑱西小稲町内会楽笑会（12回/122名）⑲北野さくら会（10回/108名）⑳べっぴん会（10回/122名）㉑さくらサロン（8回/111名）㉒ふれあいサロンふきのとう（21回/119名）

（5）地域福祉ほのぼの交流事業

高齢者や障がい者等が、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会構築のため、地域生活における見守り機能の充実を図った。事業の実施にあたり、地域福祉活動の主体である住民をほのぼの交流協力員と位置づけ、訪問等による見守り活動を促進した。

①ほのぼの交流協力員配置

訪問活動のできる住民ボランティアをほのぼの交流協力員とし、グループ編成で活動した。協力員は、本年度末で7名、対象者5世帯。地域住民が互いに見守り支え合う活動をとおして、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域福祉社会の基盤形成を促進した。

②ボランティア活動促進のための助成

ほのぼの交流協力員へボランティア保険加入料を助成することにより、住民ボランティア活動の一層の促進を図った。

(6) ゆめ色フェスティバル事業

障がいの有無・年齢・性別を問わず市民が一堂に会し、芸能発表やレクリエーション等のふれあいをとおして、障がい者の社会参加の促進と福祉の向上を図る事業。

①第1回打合せ会

期　　日　　令和2年9月9日（水）

会　　場　　市民交流プラザ

出席者　　15名（12団体）

●新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催中止とした。

（11月開催／約480名参加を予定していた）

(7) 手話を学ぶ機会の提供事業

手話の普及と聴覚障がいの理解を深めるため講習会〔昼の部〕並びに、市の委託による手話奉仕員養成講座〔夜の部〕を、市ろうあ協会と連携して行う事業。

●新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、昼の部・夜の部ともに開催中止とした。

（〔昼の部〕5月から7月全10回開催／延べ約50名参加・〔夜の部〕6月～11月全25回開催／延べ約200名参加を予定していた）

(8) 十和田市社会福祉大会事業

社会福祉関係者及び一般市民の参加を得て、社会福祉の発展に功績のあった方々を表彰・感謝する式典を行うとともに、社会福祉への理解と関心を高めるため、講演を交えた十和田市社会福祉大会を開催した。

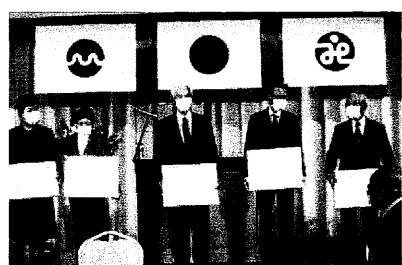
①関係者打合せ会

期　　日　　令和2年7月13日（月）

会　　場　　市民交流プラザ 多目的研修室3

内　　容　　開催内容について

出席者　　5名



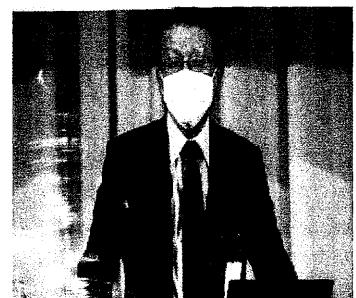
②大会表彰選考委員会

期　　日　　令和2年8月21日（金）
会　　場　　市民交流プラザ 多目的研修室2
内　　容　　表彰・感謝等の審査
出　　席　　者　　11名



③第16回十和田市社会福祉大会

期　　日　　令和2年10月21日（水）
会　　場　　サン・ロイヤルとわだ
参　加　者　　約250名
大会式典
表　彰　式　　社会福祉協議会関係表彰 表彰の部39名2団体
　　　　　　　感謝の部 2名
共同募金委員会関係表彰 個人の部14名・団体の部7団体・町内
　　　　　　　会の部14町内会
福祉の作品コンクール最優秀作品の表彰
表　彰　式　　最優秀賞表彰 作文の部3名・ポエムの部3名
　　　　　　　書道の部4名・絵画の部3名
　　　　　　　写真の部3名
記念講演　　「COVID-19の特徴を知って賢く対応しよう」
講　　師　　青森県立保健大学特任教授 大西基喜氏



（9）あんしんネットワーク構成員の集い事業

本会実施の各種福祉サービス事業の円滑な運営及び利用者や関係者と新しい制度の理解や周知、協力員等とのふれあいを図る交流会事業。

●新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催中止とした。
(3月開催／約100名参加を予定していた)

（10）十和田市生活支援体制整備事業

地域共生の社会づくりのため、多種多様な生活課題や福祉課題の改善解決と必要な支援ネットワークを構築するよう、全域コーディネーターとして協議体運営を推進した。

また、住民が主体的に課題の発見・共有となるよう、圏域コーディネーター（地域包括支援センター）及び生活支援コーディネーター（在宅介護支援センター）と協働して地域づくり座談会を開催した。

①推進会議

期　　日　　第1回 令和2年7月28日（火）13名
会　　場　　市民交流プラザ 多目的研修室2
内　　容　　令和元年度事業実績及び今年度の取組みについて
期　　日　　第2回 令和3年3月22日（月）14名
会　　場　　市民交流プラザ 多目的研修室2
内　　容　　令和3年度事業計画について

②推進会議部会

期　　日　　第1回 7月14日（火）10名／第2回 8月18日（火）13名
　　　　　　第3回 9月14日（月）11名／第4回 10月13日（火）14名
　　　　　　第5回 11月17日（火）13名／第6回 12月15日（火）12名
　　　　　　第7回 1月19日（火）14名／第8回 2月9日（火）10名
　　　　　　第9回 3月16日（火）12名
会　　場　　市民交流プラザ 他
内　　容　　部会運営・フォーラム開催・地域マップ作成・事業実績報告・情報誌作成
　　　　　　実施報告及び新年度事業計画

③地域づくりフォーラム

高齢者が生きがいをもって住み慣れた地域で暮らすことができるよう、高齢者の社会参加の普及啓発を目的に開催する事業。

●新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催中止とした。

（11月開催／約200名参加を予定していた）

④地域づくり座談会への協力

会　　場　　西十一番町町内会 延べ74名（3回）／中里町内会 延べ10名（1回）
　　　　　　東小稲町内会 延べ25名（1回）／下切田町内会 延べ19名（2回）／ 大和町内会 延べ7名（1回）／北里町内会 延べ8名

（11）発達障害理解の事業

発達障がいに対する理解を深め、地域により多くの見守りのある体制を整備することを目的に関係団体等と協働し、発達障がい・知的障がいについての講演会等を開催する事業。

●新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催中止とした。

（9月開催／約100名参加を予定していた）

3 人づくりの推進

地域で福祉を支える人づくりを目指し、地域福祉活動をより一層推進するため、豊かな知識と経験を持った人材や福祉・ボランティアに関心のある人材を活用し、地域福祉を担う人材の確保に努めるため、次の事業を実施した。

(1) 福祉教育推進事業

地域や企業・学校等からの社会福祉やボランティア活動に関する理解を深めたいという要望に対し、講話や福祉疑似体験をとおし福祉・ボランティアに関する啓蒙啓発を図った。なお、活動の際は、本会で養成した福祉教育インストラクターが出向き活動している。

[推進状況]

小中高校准看護学院の依頼 27件	活動インストラクター数
受講した児童生徒数 全970名	延べ113名

(2) ほんわかハート展事業

小・中・高校生を対象に、社会福祉についての理解と関心を高めることを目的に、ほんわかハート展の名称により、作文、絵画、ポエム、写真、書道を募集し、全27校より723点の作品が寄せられた。各部門の最優秀賞受賞者は、第16回十和田市社会福祉大会で表彰を行った。受賞作品については、イオンスーパーセンター十和田店に展示公開した。また、作品集を応募者及び各学校に配付した。

募集期間 令和2年7月～8月下旬

応募総数 723点

入選者 187名



[作文部門]

区分	応募総数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	佳作
小学校低学年の部	5作品	1名	2名	2名	0名
小学校高学年の部	0作品	0名	0名	0名	0名
中学校の部	20作品	1名	3名	5名	5名
高等学校の部	9作品	1名	3名	5名	0名

[絵画部門]

区分	応募総数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	佳作
小学校低学年の部	34作品	1名	3名	5名	5名
小学校高学年の部	19作品	1名	2名	5名	4名
中学校の部	13作品	1名	2名	5名	5名
高等学校の部	1作品	0名	1名	0名	0名

[ボランティア部門]

区分	応募総数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	佳作
小学校低学年の部	13作品	1名	2名	3名	3名
小学校高学年の部	16作品	1名	2名	3名	4名
中学校の部	5作品	0名	1名	1名	1名
高等学校の部	6作品	1名	1名	1名	1名

[写真部門]

区分	応募総数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	佳作
小学校低学年の部	15作品	1名	3名	5名	5名
小学校高学年の部	18作品	1名	2名	4名	4名
中学校の部	2作品	0名	1名	1名	0名
高等学校の部	19作品	1名	3名	5名	5名

[書道部門]

区分	応募総数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	佳作
小学校低学年の部	74作品	1名	3名	5名	5名
小学校高学年の部	197作品	1名	3名	5名	5名
中学校の部	247作品	1名	3名	5名	5名
高等学校の部	10作品	1名	2名	3名	4名

(3) 中学生ボランティアスクール事業

中学生がボランティア活動の体験学習をとおし、人の役に立つ喜び、支え合い助け合い共に生きることの大切さを学ぶ機会とするよう、生徒の夏休み期間中にスクールを開催する事業。

- 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催中止とした。
(7月の全2日間開催／約30名参加を予定していた)

(4) 中高生福祉サミット事業

中高生が社会福祉やボランティア活動の大切さについて、自由な意見交換や共同の作業をすることにより、思いやりの気持ち、助け合いの気持ちを育む機会とする事業。

- 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催中止とした。
(1月開催／約20名参加を予定していた)

(5) 災害救援ボランティア活動研修事業

災害救援ボランティアに関心のある市民を対象に、災害発生時に必要とされる活動を理解し、自らが可能なことを実行する人材育成を目的とし開催した。

期　　日　　令和2年2月19日（金）　※夜間開催

会　　場　　市民交流プラザ

参 加 者　　32名



(6) お話しボランティア派遣事業

一人暮らし高齢者等で日中、話し相手がなく誰かと話したいという希望登録者7名に対し、話し相手をするボランティア（ボランティア登録者20名）を延べ9回派遣した。

(7) ボランティア・市民活動事業

ボランティア・市民活動団体の活動の活性化を図るため福祉教育を推進するとともに各種支援やボランティアセンター（災害時ボランティアセンター含む）の運営に努めた。

①器具・機材の貸出

ボランティア活動等の便宜を図るため、器具・機材の貸し出しを行った。

〔貸出状況〕

機　材　名	数　量
点　字　器	15器

②ボランティア保険の加入促進

ボランティア活動者、受け入れ者の安心確保につながる保険加入の促進に努めた。

〔保険加入状況〕

ボランティア活動保険

全	37件	基本プラン	… 30件 (824名)
全	869名	天災・地震プラン	… 7件 (45名)

ボランティア行事用保険

全	6件	A1プラン	… 3件 (100名)
全	189名	B1プラン	… 2件 (44名)
		B2プラン	… 1件 (45名)

ふれあいサロン傷害補償

全	12件	Aプラン	… 10件 (1,772名)
全	2,144名	Bプラン	… 2件 (372名)

〔保険給付状況〕

傷害保険 0件

③ボランティア保険加入者への助成

多くのボランティア活動者が、無理なく保険加入できるよう掛け金（保険料）の一部助成を行った。

〔助成状況〕

全594名 (23団体592名・個人2名)

④ボランティア活動に関する登録斡旋と連絡調整

ボランティア活動の推進を図るため、登録斡旋を促進するとともに、ボランティアを「お願いしたいという依頼」、「活動したいという希望」、それぞれの連絡調整を行った。

〔ボランティアの登録状況〕

・団体 51団体 (登録者数 2,880名) ・個人 81名

〔ボランティアの斡旋状況〕

・依頼件数 6件 (施設等)	・依頼人数 6名
・斡旋件数 0件	・斡旋人数 0名

〔ボランティアの斡旋事例〕

※新型コロナウイルス感染症拡大により依頼件数が大きく減少した。また同理由から斡旋も中止した。

⑤ボランティア活動に関する調査研究

ボランティア活動の実態把握のため、市内の「関係団体、個人に対して活動状況調査」を実施した。また、「施設にどんなボランティアが訪問しているかの状況調査」を行うとともに、「施設のボランティア受入体制調査」を実施した。なお、この結果を「市内ボランティア団体・個人活動調査表」とし、問い合わせ等に対して最新の情報提供を行った。

⑥ボランティア団体育成のための助成事業の実施

ボランティア団体の育成及び活性化を図るために、本会へボランティア登録する団体・グループへ申請に基づき活動経費の助成を行った。

〔助成状況〕

全14団体・グループ

高齢者や児童、障がい者に関する活動 (6団体・グループ)

市連合婦人会／精神保健福祉ボランティア駒の会／十和田点訳・朗読奉仕会

傾聴サロンとわだ／手話サークルおいらせ／県手話通訳問題研究会

子育て支援に関する活動 (1団体・グループ)

市更生保護女性会

健康づくりに関する活動 (7団体・グループ)

街なか歌声いきいきサークル／ポラリスフラ／こころの広場ルピナス

十和田シニアパソコンクラブ／めらしちの会／街なか演芸会実行委員会

心身活性教室とわだ

(8) 十和田市介護支援ボランティア事業

高齢者がボランティア活動をとおし、社会参加と介護予防・健康維持を増進するよう活動登録のための研修会を開催した。また、活動した際に付与されるボランティアポイントを地場産商品と交換し、高齢者福祉とボランティア活動の促進を図った。

[事業状況]

※1点=1時間

No.	区分	本年度	内訳
1	登録者数	6名	①70~74歳代3名②65~69歳代1名 他
2	延べ登録者数	104名	①70~74歳代42名②65~69歳代24名 他
3	延べ活動者数	34名	
4	延べ活動回数	151回	一人あたり4.4回
5	延べ活動時間	453.0時間	一回あたり3.0時間
6	ポイント交換者数	7名	①50点3名②10点2名③30点1名③40点1名

※事業状況は、事業報告附属明細書「介護支援ボランティア事業実施状況」参照のこと。

①説明研修会

期日 第1回 令和2年6月19日(金)

※新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催中止とした。

第2回 令和2年8月19日(水) 2名

第3回 令和2年11月27日(金) 4名

会場 市民交流プラザ

4 協力・連携・協働の強化

(1) 関係行政との連携協働

高齢者や障がい者等の虐待、社会的孤立、ひきこもりやニート、ひとり親、子どもや貧困問題等の福祉課題や生活課題、さらに成年後見制度利用支援等、市の実施する各種事業と協働するよう取り組んだ。また、第2期十和田市地域福祉計画策定へ参画し協働を図った。

※「たすけあい資金貸付事業」「成年後見事業」「フードバンク・サポート事業」「生活支援体制整備事業」参照のこと。

(2) 地域包括支援センターとの連携協働

高齢者の介護予防やサービス提供、日常生活の安定のための連携を図り、協働による支援により高齢者福祉増進を図った。

※「成年後見事業」参照のこと。

(3) 民生委員児童委員協議会との連携協働

地域住民の身近な相談役・支援者である民生委員・児童委員との連携を図り、住民が安心して生きいきと暮らせる地域社会づくりに努めた。

※「ふれあい相談所事業」「各種貸付事業」参照のこと。

(4) 町内会連合会との連携協働

住民生活の拠点である地域の町内会との連携を図り、住民が安心して生きいきと暮らせる地域社会づくりに努めた。

※「生活支援体制整備事業」参照のこと。

(5) 身体障害者福祉会との連携協働

身体障がい者の日常生活の安定充実のため障害者福祉会との連携を図り、障がいのある方も安心して生きいきと暮らせる地域社会づくりに努めた。

※「ゆめ色フェスティバル事業」参照のこと。

(6) 老人クラブ連合会との連携協働

高齢者の日常生活の安定充実のため老人クラブ連合会との連携を図り、高齢者が安心して生きいきと暮らせる地域社会づくりに努めた。

※「高齢者健康体力維持支援事業」参照のこと。

(7) 更生保護女性会との連携協働

住み良いまちづくりのため更生保護女性会との連携を図り、誰もが安心して生きいきと暮らせる地域社会づくりに努めた。また、一環として、児童の健全育成事業の協働を図った。

※「夏休み寺子屋事業」参照のこと。

(8) 連合婦人会との連携協働

住み良いまちづくりのため連合婦人会との連携を図り、住民が安心して生きいきと暮らせる地域社会づくりに努めた。

※「ゆめ色フェスティバル事業」参照のこと。

(9) 手をつなぐ育成会との連携協働

知的障がい者とその家族の日常生活の安定充実のため手をつなぐ育成会との連携を図り、障がいのある方と家族が安心して生きいきと暮らせる地域社会づくりに努めた。

※「ゆめ色フェスティバル事業」「発達障害理解の事業」参照のこと。

(10) 市内福祉法人との連携協働

地域福祉の充実安定のため福祉課題の改善となるよう社会福祉法人間の連携を図り、誰もが安心して生きいきと暮らせる地域社会づくりに努めた。

※「たすけあい資金貸付事業」「成年後見事業」「フードバンク・サポート事業」「生活支援体制整備事業」参照のこと。

5 福祉サービス利用者等の個人情報の保護

本会の把握する福祉サービス利用者等の権利利益を保護するため個人情報の有用性に配慮し、情報共有のための個人情報提供や広報活動における慎重かつ厳格な取扱いに努めた。

6 歳末たすけあい運動

歳末たすけあい募金の配分金を、低所得世帯の修学支援となるよう図書カードの交付に活用した。

※事業状況は、事業報告附属明細書「共同募金事業実施状況」参照のこと。

7 組織基盤の強化

社会福祉法人の責務に則り、社会福祉協議会の果たすべき役割に基づく、機能的・効果的な事務執行体制の整備と業務改善に努めた。また、財務規律の厳格化、自主財源確保に努め組織基盤の強化を図った。

(1) 事務執行における内部けん制体制

- ①経理規程を遵守し、現金の入出金体制の厳格化に努めた。また、各種事業ごとの現金取扱の内部けん制マニュアルを全職員が徹底厳守した。
- ②監事3名により経理監査を年3回実施した。

(2) 多様な参画による会員組織

可能な機会を通じて、地域福祉づくりの重要性を啓蒙し、会員（住民）理解に努めた。
※会費状況は、事業報告附属明細書「各種会費納入状況」参照のこと。

(3) 役員体制の強化

理事・監事・評議員へ、会議及び研修等への参加を呼びかけ役員体制の強化に努めた。
また、広報紙社協だよりを送付し、社協事業の更なる理解の向上を図った。

(4) 機能的・効果的な事務局組織

全職員が、人材育成基本方針に掲げる「目指すべき職員像」に努めた。また、職員は、事務局組織の向上を目指し、各種会議及び研修に積極的に参加した。

※状況は、事業報告附属明細書「各種会議開催及び参加状況」参照のこと。

(5) 安定的・持続的な財源確保

長期安定財源として、寄附金等の積立による「福祉基金」の造成を図った。また、認知症高齢者グループホーム外部評価訪問調査、実習生受入等の業務を積極的に実施し、自主財源確保に努めた。

※事業報告附属明細書「各種会費納入状況」「各種寄附状況」「共同募金事業実施状況」
参照のこと。

(6) 法令遵守の組織運営と財務規律の強化

公益性の高い社会福祉法人として、全職員が、適正かつ公正な支出管理に努めた。また、運営状況（事業報告、計画・計算書類・定款・役員名簿・報酬規程他）に関して、広報紙社協だよりやホームページを通じて公表した。

(7) 地域福祉活動計画の進行管理

計画した各種事業の課題・方向性を意識し、事業実施に努めた。令和3（平成33）年度までの計画期間中に評価指標に到達するよう、また、新規事業取組みや事業廃止においても計画に合致するよう進行管理に努めた。

(8) 経費の縮減と事務処理の効率化

事務局内の省エネ・エコ対策推進委員会活動等をとおして、事務処理の効率化を呼びかけ、通信費や消耗品費等の経費縮減に努めた。

(9) 事業評価の実施

全事業・業務について、担当者の自己評価後、係間において評価を実施し、問題点を話し合い、必要な見直し改善に努めた。